君がいた夜

優希菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君がいた夜

【Ｎコード】
Ｎ９０７８Ｘ

【作者名】
優希菜

【あらすじ】
夜はさみしいの・・・。

普通の生活を送る、普通の女子中学生・篠原優香。
そんな彼女の灰色の生活が一人の少年が隣に越してきたことで鮮やかに色がついていく・・・恋物語。

第一夜

夜は嫌い。
静かすぎて独りが身に染みる。
寂しいの・・・。

１４歳の秋。
今日も空は乾いて澄んでいる。
樹の枯葉もだいぶ落ちてきた。
でも、２学期はまだ半分もあるんだ・・・。
トモダチもいるし普通の会話も面白いことだってある。
でも、なんだか退屈。
「・・・のはらっ・・・篠原！」
！

「はっ、はい！」
「何ぼーっとしてんだ！いま大事なところやってんだぞ」
「すみません・・・。」
そういえば今は数学の時間だっけ
私は篠原優香、現役女子中学生
「キーンコーンカーンコーン」
ガタガタッ
「礼」
「優香ぁ何ぼーっとしてたの？」
「べっつに。なんかやる気でなくってさ」
「アタシもなんだよね。眠くってさ。昨日全然寝てないんだよね
ずっと彼とメールしてたの？」
「さようですかっ」
自慢かいっ！私だって彼氏欲しいけど真樹ほど可愛くないしさっ
告白されたことだってないもん

皆今日の授業は終わったから帰って行く。
「アタシたちも帰ろっか」
「うん」
私たちもいつもの帰り道をてくてく歩いていく。
でも真樹はいっつも・・・
「・・・でさ、拓也（真樹の彼氏）ったらみんなのいる前でキスしてこようとするんだよ！
ありえなくないっ？！」
「そーだね」
彼氏いない私に言われても・・・
大体そんなに悪口言うなら付き合わなければいいのに
「じゃあ、私ココで」
「うん！じゃあまた明日ね」
私の家は母子家庭で夜母親は仕事に出かけてしまって一人ぼっち
これからどうやって時間つぶすかな
「あれ？」
隣にだれか越してきたみたい
段ボールがいっぱい積まれている。
となりだし後で顔見れるかな
私はそのまま家に入っていった
~ピーンポーン~
誰かな？
「ハーイ」
ガチャ
「隣に越してきた西岡です。あいさつに来ました。」
か・・・カッコいいっ！！！
「はっはい！こんばんは。私は篠原優香です」
「俺は西岡賢人です。」
「え、えっとおいくつですか？」
「１４です。君は？」

「私も１４歳です」
「ってことは学校同じですね」
「あっそうですね！もしわからないことがあったら何でも聞いて下さいね！」
「有り難うございます。さっそくで悪いんですが、ここら辺のことはまだ
よく知らないので明日学校まで一緒に行ってくれませんか？」
「はいっ。もちろんいいですよ！」
やった！仲良くなれるといいな
「あっ携帯もってますか？よかったらアドレス教えて下さい
ここら辺全然トモダチいないんでたまに遊びましょう！」
「いいですよ。じゃあこれからは敬語なしで」
カチカチ。ピッ。
「有り難う」
「じゃあこれ。タオルだけど」
「有り難う。じゃあ、お休みなさい」
「お休みなさい」
バタン
やった！これなら少しは夜も寂しくなくなるかな・・・
カチカチ
『篠原優香です（＃^・^＃）これから宜しくね！明日は何時に家を出る？
学校まで３０分ぐらいかかるけど』
「そーしん！」
ピッ
ドキドキ緊張した。
初めてのメールはやっぱ緊張するなぁ
チャラリーン♪
びっくりした・・・
どきどき

緊張しながら私はメールを開いた
『じゃあ、7時２０分でもいい？職員室にあいさつに行かないといけないから』
カチカチ。ピッ
『いいよ（＾＾♪じゃあまた明日？』
チャラリーン♪
『うん。お休み』
良かった。普通にメールできた
すごい嬉しい・・・／／／／
もしかして私・・・西岡君のことが好きっ？！
私・・・西岡君のこと好きでいられることがすごい嬉しい・・・／／／

翌朝
ピリリリリ♪
なんか早く目がさめちゃったな
母親はお昼まで起きない。
朝ごはんを作ってお昼ご飯を作る。
身支度を整えて、
「よしっ！準備万端！」
ピンポーン。ガチャ
「はいっ」
「おはよう」
「おっおはよう！」
「じゃあ、お願いします」
「まかせて！」
トコトコ
うぅ～やっぱ緊張するよう／／／
「えっと、篠原さんは部活とか入ってるの？」
「うん。一応ソフトボール部なんだ」

「そうなんだ。俺はバスケ部に入ろうと思ってるんだけどあるかな？」
「うん！あるよ」
「そっか。よかった」
３０分後
「着いた―！」
「篠原さん有り難う」
「ううん！このくらい全然」
「帰りもお願いしていい？」
「いいよ今日は部活休みだから」
やったー！帰りも一緒にいられるんだ・・・！
私たちは昇降口を通り、職員室へ向かった。

第一夜（後書き）

初めての投稿ですごい緊張しました
小説は書いたことがないので読んでいて変なところがあるかもしれませんが、
最後まで読んでください！
感想待ってます

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9078x/

君がいた夜

2011年10月25日01時59分発行